

授業科目名 (英訳)	認知過程論 Seminar on Cognitive Psychology					担当者所属 職名・氏名	こころの未来研究センター 教授・吉川 左紀子				
配当学年	2・3 回生	単位数	2	開講年度 開 講 期	H27 後期	曜時間	金/4	授業形態	講義	使用言語	日本語
〔授業の概要・目的〕											
社会的状況が個人の認知・感情過程に及ぼす影響、広い意味での対人コミュニケーションや、対人相互作用等に関し、これまでの研究紹介およびディスカッションを中心とした講義・演習を行う。健常者の認知・感情過程だけでなく、非定形発達や高齢者等を含む、認知や感情過程の個人差や個人内の変動にも着目して、受講生各自の研究テーマを深める講義・演習を行う。											
〔到達目標〕											
対人コミュニケーションや対人相互作用に関する心理学研究の基礎知識を得るとともに各自の問題意識と結びつけた議論を深める力を身に付ける。											
〔授業計画と内容〕											
各学期の初回に受講生と相談のうえ進行のスケジュールを決める。											
授業内容は、											
<ul style="list-style-type: none"> ・各受講生の研究報告【1回～4回】 ・研究論文の報告とディスカッション【5回～8回】 ・学会・研究会での研究発表の予行練習【9回～12回】 ・他研究科・他大学の研究員や院生との研究交流【13回～15回】等である。 											
それぞれの回の研究報告やディスカッションのテーマに合わせ、必要に応じて前提となる基礎知識に関する講義を行う。なお、夏休み・春休み期間中に、他大学の研究者や大学院生を含めた拡大演習を実施することがある。											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
授業に出席し研究発表を行うこと、ディスカッションに参加することを基本的な要件とする。本人の履修目的や動機を考慮し、総合的に達成度を評価する。											
〔教科書〕											
特に指定しない。											
〔参考書等〕											
適宜指示する。											
〔授業外学習（予習・復習）等〕											
事前、あるいは授業中に紹介する参考文献を授業外学習に活用すること。											
〔その他（オフィスアワー等）〕											
※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください。											
say@educ.kyoto-u.ac.jp											